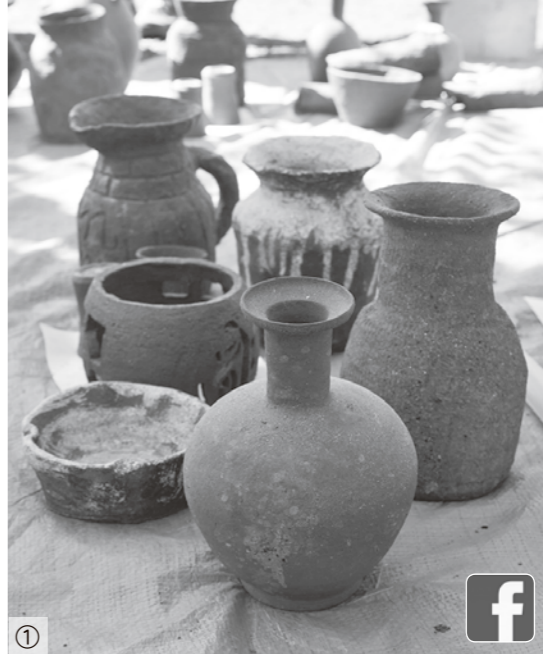


ピックアップ
広報1

10月に通算5度目となる焼成実験を実施

復元古代窯で須恵器の焼成を再現



①



②



③

【写真①】今回は、酸素不足状態で燃やす「還元焼成」を行い、作品の多くは黒褐色に焼き上げられました。【写真②】復元古代窯への窯詰め。狭い窯の中で、作品を一つ一つ丁寧に積み上げる作業は長時間に及びました。なお、8月に実施した「焼き物づくり体験」では「鳩山町歴史・観光ボランティア」の皆さんにも協力いただきました。【写真③】あぶりも含め、約1週間かけて焼成を行いました。

鳩山町は、奈良時代を中心に国分寺瓦や須恵器の生産地として栄え、その名残である「甕窯」が町内に多数現存しています。現在、南比企窯跡群の国指定史跡化に向け、それらを保存・活用することで地域の活性化につなげようと考えています。

その一環で、10月19日から29日の期間、農村公園内の復元古代窯で焼成実験（町教育委員会主催）が行われました。最終日となる10月29日には、作品の窯出しが行われ、焼成を終えた作品群がその姿を現しました。

須恵器の「再現」から
新たなステージを目指す

試行錯誤を重ねてきた焼成実験も今年で5回目。今回は、須恵器の再現をテーマに、酸素不足状態で燃やす「還元焼成」に挑戦しました。時間をかけて

徐々に窯の中の温度を上げていき、約1100度まで到達。高温で焼かれた作品の多くは、見事に黒褐色の焼き上がりとなり、須恵器を焼くことに概ね成功しました。

今回は、夏休み期間の8月に一般の方を対象に行われた「焼き物づくり体験」で作られた須恵器とミニ瓦や、今年度から組織された「鳩山町復元古代窯活用ボランティア」の皆さんが数か月かけて作ってきた須恵器



講師から焼成実験の講評もいただきました。

「鳩山町復元古代窯活用ボランティア」の皆さん。



や瓦などの作品群を焼成。また、以前に焼き上げた「瓦塔」も2度目の焼成を行いました。焼成実験に講師として参加した、群馬県前橋市にある「心窯陶芸クラブ」主宰の石井政幸先生は、「取り組みを地域の文化として根付かせるためには、例えば年1回の焼成だけでは、多くの方が気軽に参加できるような仕掛けも必要」と語ります。今後は、より多くの人が「焼き物の里」を感じられるような機会をさらに作っていく取り組みや、それを担う人づくりと体制づくりが求められています。

ピックアップ
広報2

「消防フェア」「特別点検」に見る
災害に備える消防団・消防署の力

災害時や非常時への備えには、普段から防災意識を高めておくことが大切です。その啓発や備えを行っている大きな存在が、消防署員や救急隊員、そして献身的に地域で活動を行う消防団員です。

非常時の啓発活動と
非常時の対応への備え

消防署や消防団では、様々な催しや教室を通じて、非常時に啓発活動を行っています。10月16日には、西入間広域消防組合・鳩山消防団の主催により、町中央公民館で「消防フェア」を開催。バケツリレーや応急手当体験、ロープ渡り体験、消火器ゲームなど、参加者が防災への意識を高める催しとなりました。啓発活動だけでなく、いざというときに私たちの生命や財産を守ってくれる消防関係者。消防フェアでは、消防署・埼玉

減少する消防団員数

災害に強いまちづくりには、地域に詳しい消防団の存在が欠かせませんが、ここ数年、消防団への入団者数は減少傾向です。消防活動に携わる人の減少は、地域の防災力の低下につながります。消防団への加入に、皆さまのご協力をお願いします。

鳩山町・越生町の消防団員と消防署員が一堂に集り、規律の取れた迅速な動きや機械器具の点検を管理者等に披露しました。



②



①



④



③

【写真①】消防署・DMAT・航空隊による合同訓練 【写真②】「なでしこ体操」で救命の輪の重要性を啓発する女性消防団（以上「消防フェア」より） 【写真③】機械器具の点検を行う鳩山消防団 【写真④】献身的な活動により功労章を受ける鳩山消防団員（以上、「特別点検」より）

平成29年消防団出初式

消防団では、地域に根ざした消防活動を推進するため、住民参加型の出初式を実施します。ぜひご来場ください。

日時 1月8日(日)午前9時～11時

場所 町中央公民館西側駐車場(駐車場は、町中央公民館駐車場をご利用ください)

内容 消防車搭乗体験、地震体験、手押しポンプ体験、模擬店(豚汁、焼きそば、わたあめの無料配布)など ※雨天時は、町中央公民館レクリエーションホールにおいて式典のみ実施。 ※午前9時30分頃に埼玉県防災ヘリコプターが上空広報で飛来します。

問合せ 西入間広域消防組合消防本部 警防課 ☎295-0154

